

化政文化

今日の問い

江戸時代後期の文化は、どのような人々によって、どのように楽しまれたのだろう。

左の問いに答えるつもりで、右のノートの下線に語句を書こう。最後に「まとめ」で今日の問いに答えよう。

問い・キーワード

ノート 下線に語句を書こう

1 江戸の町人はどんな文
学を楽しんだか。

滑稽本・川柳・狂歌・俳諧

19世紀の初め、江戸の町人をにない手とする¹ 化政文化 が栄えた。
² 十返舎一九 の「東海道中膝栗毛」などの滑稽本が人気を集め、世の中を皮肉や
こっけいをまじえてよむ³ 川柳 や狂歌が流行した。俳諧では、⁴ 与謝蕪村 が
絵のような情景の句を、⁵ 小林一茶 が農村の暮らしや生き物をよんだ句を残し
た。

2 庶民はどんな絵や楽し
みをもっていたか。

錦絵・歌舞伎・寄席・旅

多色刷りの版画である⁶ 錦絵 が安く売られ、浮世絵は庶民にも広まった。
⁷ 葛飾北斎 の「富嶽三十六景」や⁸ 歌川広重 の「東海道五十三次」など、風
景を描いた作品が多くつくられた。町人は⁹ 歌舞伎 の芝居見物や、落語などを楽
しむ¹⁰ 寄席 に出かけ、伊勢参りなどの旅も盛んになった。

まとめ

今日の問いに答えよう。「町人」「浮世絵」の2語を使って、2文で書きなさい。

(例)化政文化は江戸の町人をにない手とし、滑稽本や川柳・狂歌が親しまれた。浮世絵は錦絵として安く売られて庶民に
広まり、歌舞伎や寄席、旅も庶民の楽しみとなった。

